

だ み よ く り に

No.755 令和6年11月1日発行



「ころをつくるあなたのことば」

園内では、毎日たくさんの言葉が行き交っています。最近の印象的な言葉をご紹介します。「うんどうかいやりたい」これは現年中さんから一年間言われ続けました。しかし9月中旬、運転会練習が始まるとぱったり言われなくなりました。きっとそのお子さまの「やりたい」が叶って満たされたのだと思いました。そして次は「あぁ緊張した〜」これは内科健診後の年長さんの言葉です。一瞬一瞬を全力で生きている子どもらしい言葉です。心がしっかり育ってる、そう思いました。子どもたちの言葉から心が動かされる日々です。ありがたいことです。

一方で、街中では色々な言葉が耳に入ってきます。「いい加減にしなさいよ、本当ありえないんだから、知らないからね」そうきつく言われている相手はおそらく中学生くらいの娘さんと見られる人でした。お店で洗剤を選んでいた時の、横にいた親子らしき二人の会話です。その娘さんは黙っていましたが、数秒後に「もう無理」と小さな声で言いました。この場面を目の当たりにし、娘さんの気持ちを汲み取るととても苦しくなりました。言葉ってものすごく大事なのに、言葉って心を作ってるのに……と。振り絞るように出た「もう無理」という一言に、心情が感じられました。この親子の背景にどんなことがあったのかわかりませんので、何とも言いきれませんが、大人の言葉の選択、言い方については疑問が残りました。

さて、わたしたち保育者は言葉を大切にします。先ほども書いたように、「言葉が心を作るから」です。どん

な言葉をかけるかで、次の瞬間の、数年先の相手（子どもだけでなく大人も同じです）の姿が変わるからです。

言葉を大切にされてきた児童文学作家の中川李枝子さんの訃報が先日伝えられました。「ぐりとぐら」「いやいやえん」「そらいろのたね」ほか多数の著書があります。皆さんも子ども時代に読んだことがあるのではないのでしょうか。思い浮かぶものはありますか。わたしは特に「いやいやえん」が浮かびます。自分が幼稚園生だったときに先生から読んでもらったことや自分が年長組担任だったときに子どもたちに読んだことがあります、思い出深い一冊です。中川さんは絵本だけでなく、子育てする方々に向けたエッセイも書かれています。その一冊のまえがきに書かれている言葉を載せます。

焦らないで、だいじょうぶ。悩まないで、だいじょうぶ。
子どもをよく見ていれば、だいじょうぶ。
子どもは子どもらしいのがいちばんよ。

「秋の夜長」とは言いますが、長さを体感することも儘ならない日々ではないのでしょうか。それに気温の急降下もありましたが、お体変わりありませんか。食事はとれていますか。どうぞお体に気をつけてお過ごしください。

わたしは春咲きの球根を早く植えたいのですが時期がずれてしまいそうで焦っています。球根を植えるのに適した時期があるとは、みくに学園が大事にしている「適した時期に適した援助」という考えと似ています。今月もおおさま一人ひとりが、そのおおさまらしく子ども時代を過ごせるよう、職員一同よく見ていきます。